

独立・非同盟・平和・民主・公正の国際秩序を目指す岐阜県の会機関誌

アジア・アフリカ・ラテンアメリカ 岐阜県地方版

発行日 2008年4月2日発行 第23号

発行所 〒504-0825 岐阜県各務原市蘇原柿沢町2-47 岐阜県アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

# 韓国歴史と平和と友好の旅 報告特集

## ソウルと韓国九条の会 編

高橋信さんと行く「3・20韓国歴史と平和と友好の旅4日間」は、予定通りの(予定を上回る)4日間の日程を終了し、11名の参加者及びご案内いただいた高橋信さんの12名全員が無事帰国いたしました。以下、詳細を2回に分けて、他の参加者の方から送っていただいた写真で今回の参加者の1人である事務局が感想を交えて、連載報告いたします。1回目は、1日目と2日目の訪問したソウル市内・郊外と韓国九条の会の方々との交流です。

### 1日目午後、統一展望台から北朝鮮を望む

3月20日(金)、大韓航空で仁川国際空港へ到着しました。マイクロバスに乗換えて、快適な高速道路を一旦ソウルに向かい、金浦空港付近で北進して、本日最初の目的地(空港で訪問順序を変更)臨津閣(自由の橋を望む)へ向かいました。海外旅行で最も感動的な時間は、やはり初日です。車窓の風景の一つ一つが、車内の話題になる1時間半で、たちまちイムジン河のほとりの臨津閣に到着しました。昨年5月からは、南北相互乗り入れの鉄道も開通し、韓国の人も、北朝鮮を列車で訪問できるようになっているとの高橋さんの解説があり、干渉による国家分断の現実を作り出してきた周辺大国と、統一に向けて、着実な歩みを続けてきた当事者朝鮮半島の人々の努力との間に大きな意識のギャップがあることを実感させられる場所でした。

次に訪問したオドゥ山統一展望台も、かつて、反共宣伝の場所と聞いていただけに、館内でイムジン河が流れているのを聞いたときには、時代の流れを実感させられました。稲垣団長の解説では、以前訪れたときは、訪問客でもイムジン河を歌うことさえ禁じられていたそうです。流れていたのは、北朝鮮・韓国双方の歌手が歌うイムジン河で、北朝鮮が、韓国を飛び越えて、日本に攻めてくるかもしれないと莫大な防衛予算を組んでいる人に



統一展望台からイムジン河と北朝鮮を望む  
(上・下 撮影は小林宏子さん)

聞かせてあげたい曲でした。今では、双方の国を宣伝する放送もなく、ここでも、統一に向けた、韓国の人々の気の使いようが感じられました。ややうがった見方をすれば、北朝鮮の軍部と米軍部はグルで、お互いに現在の冷戦状態が双方の利益につながっているの、彼等に交渉をまかしておいては、いつまでたっても問題は解決しないのではないか。(つまり、彼等は、解決したくない。)一方で、韓国や北朝鮮の両国民の願いや利益とはかけはなれた軍事対立は、必ず両国民の意思と努力により、歴史的に正される方向に進む(現実に進んでいる)という実感も感じられる場所でした。

同じ実感は、次に訪問した国立中央博物館でも、伝わってきます。(事務局の勘違いで、この博物館は、独立記念館のような、韓国の歴史の流れを資料に基づき解説する歴史博物館ではなく、韓国の国宝や重要文化財となっている美術品を中心とした博物館でした。)高橋さんの解説では、この博物館の建っている場所は、かつて日本軍が朝鮮半島を支配する拠点として軍隊を駐留させた場所、古くは、中国が朝鮮半島を支配する軍隊を駐留させた場所、そして最近までは、米軍が駐留していた場所、大国による軍事干渉の象徴的な場所だそうです。その場所に、民族が誇る文化財を展示する巨大な博物館を建設したことは、韓国の現在の独立と平和と繁栄を象徴する意義があるとして、今回の訪問することのなった場所です。



新大元旅館にて(撮影:小林宏子さん)

また、展示してある文化財も、興味深い物ばかりで、中国や日本の文化との共通点、相違点などが、解説されており、異なる民族でありながら、敵対の歴史ばかりでなく、日本や中国そして、他のアジアの国々との古くからの文化交流、技術交流などの友好の歴史を感じさせてくれるすばらしい博物館でした。

## 韓国九条の会の方と交流懇談

博物館を見学した後は、宿に荷物を預けて、先方を待たせてはいけないと、急いで夕食・交流会場の仁寺洞の「多味」へ向かいました。本日の宿と食事場所は、事務局が、インターネットを駆使して探し当てた純各韓国風の伝統的家屋です。味や設備は別として、世界中

どこへいっても同じスタイルのアメリカンタイプのサービス施設に比して、旅情たっぷりの韓国の夜で、事務局1人、我が意を得たりと密かに大満足でした。(設備・サービスには、当初から不満の声も)

多味で私たちを待っていてくれたのは、平和憲法市民連帯(韓国九条の会)顧問の朴賢緒(パクヒュンセオ)氏と韓国九条の会発起人の1人で平和活動家の金承國(キムスングク)氏の2人でした。

交流会は、双方の団体の紹介と乾杯ではじまり、お酒と料理を楽しみながら参加者全員が自己紹介し、自由に歓談する内容でした。高橋さんと喧嘩するほどの仲という貫禄たっぷりの朴さんや若き学者の金さんと酒を酌み交わしながらあっという間の2時間でした。「犬山市は、教育行政が進んでいることで有名」とか、「小田原評定は、当時としては平和的」などという



歓談する高橋さん(左)とパクさん(右)  
(撮影は椋木真佐子さん)

日本のローカルな話を知っている朴さんの博識に一同びっくりしました。朴さんは、独立記念館の第4展示館（3.1独立運動）の監修をされたかたで、パルチザンの経験もあるそうです。金さんは、日本の明治大学に留学していた経験もあるそうで、お二人とも日本語は、ぺらぺらで、心配した言葉の壁も、韓国の活動家のすぐれた語学力と知識にささえられながら楽しく進行しました。金さんには、2次会にもつきあっていただき、韓国にも、むかしあったAALAを再建したいという、うれしい話が聞けました。ベネズエラのボリバル革命にも関心があるとのこと。



以前、国安理事長と、韓国にも非同盟を貫くAALAがあったらどんなにいいかと話し合っていたこともあり、初めての訪問で、こんな楽しい話ができるなんて、すばらしい交流会でした。「若い人に、運動を説明できるDVDがほしい」という思いも共通してました。2～3日分ぐらいの充実した、長い初日でした。



二日目の訪問先は、最初にタブコル公園を訪問する予定でしたが、バス会社のミス伝達により、まだ、開館時間前の西大門 刑務所

## 二日目、韓国の独立運動

上：挨拶するキムさん（左） 下：パクさん（下右から2人目）を囲んで  
撮影は上：椋木真佐子さん 下：小林宏子さん

歴史館に到着してしまいました。

高橋さんの交渉で、開館前ですが、特別に見学させてもらいました。この歴史館は、日帝

支配の時代、抗日（独立）運動の活動家が多く収監され、残虐な拷問が行われ、多くの活動家が虐殺された刑務所として、韓国の独立運動の苦難の歴史を学びに来た私たちにとっては、最も重要な見学地の1つです。私たちに罪があるわけではありませんが、同じ日本人として、恥ずかしくなるような日本軍による、残虐な拷問シーンがロウ人形で再現されており、こういった侵略の事実の1つ1つを教科書から消し、朝鮮半島をロシアから守るためとか、兄弟の国として仲良くしようと韓国へ進出したなどと、笑止千万な歴史のねつ造で、再び国民を欺こうとたくらむ靖国派の企てには、全く腹立たしいばかりです。「日本国民は、そんな馬鹿ばかりではないぞ。他国から、野蛮で、馬鹿な国民の多い国と思われても知らないぞ、おまえらには、愛国心がないのか。」と、突如、戦中に、侵略戦争に反対を貫き、刑務所の中でも不転向と裁判闘争を続けて、日本人の名誉を守ったと評された、日本の真の愛国者宮本顕治氏を思い起こしました。



西大門刑務所歴史館（撮影：小林宏子さん）

そういえば、同じ戦後世代の志位和夫氏

が、韓国を訪問した際、最初に訪問したのが、この歴史館でした。3.1独立運動当時の「赤旗(セッキ)」に発表された、3.1独立運動を支持し、連帯を訴える論説が掲載されたものです。当時、AALAはありませんでしたが、私たちと志を同じくする先輩の時代には、両国の真の愛国者が、命がけで連帯し、歴史を築いていった過去に思いがおよび、現在の日本国憲法九条は、それらの方々の犠牲の上に勝ち取られた条文で、私たちの世代は、その恩恵を享受しているとともに、次の世代の為に守り、そして、朝鮮半島に平和憲法をもった統一国家をつくることを目標に活動している韓国の進歩的人々との連帯が、さらなる歴史のページを切り開いていく1助につながっていくことを願わずにはいられませんでした。



八角亭で独立宣言を読み上げるソンビョルヒ氏のレリーフ (撮影は小林宏子さん)

順序は逆になりましたが、次に、3.1独立運動の発祥地、タブコル(パゴダ)公園を訪れました。独立宣言が読み上げられた八角堂や独立宣言の宣言文の書かれた碑、独立運動が、全国に広まっていったようすを紹介するレリーフなどを、高橋さんの解説で見学、碑の前で連帯旗をかかげて記念写真を撮りました。日本人とみるや老人が近づいてきて、「あなたたちは、悪いことをしましたね。」と話しかけてくるひとまくも。うまく説明できず、「ええ、親たちの世代はほんとうにひどいことをしました。」と答えると、分かっているじゃないかという顔をして、うなずいて、立ち去っていきました。やはり、侵略に無反省な靖国派のせいで、日本人はみんな、悪者と思われるようで、ほんとうに迷惑です。

## 濟州への旅立ち

このあと、高速道路をとりこわして、川の流れる公園を創ったという場所を車窓より見学し、車内で、のりまきの昼食を食べながら金浦空港へ向かいました。バス会社が、再度間違えて、国際ターミナルへ到着、循環バスで、国内ターミナルに移動してから、大韓航空へチェックインとなりました。そして、次の目的地、平和の島濟州島へ私たちは飛び立ちました。

**韓国歴史と平和と友好の旅 反省・報告会のお知らせ**

参加者の写真と旅の物語、そして旅人理事会委員が各自の旅を報告します。参加者はもちろん、理事・委員の積極的な参加を歓迎します。人数を把握したいので、旅行参加者は早め、旅行参加者以外の方は出版までご連絡下さい。(090-8100-0019 鈴木)

**とぎ：4月26日(土) 18:00 - 20:00**  
**とぎ：門池(かどいけ)**

石川原由一 黒山由麻 石川原由一 黒山由麻 石川原由一 黒山由麻  
 石川原由一 黒山由麻 石川原由一 黒山由麻 石川原由一 黒山由麻

**会費：3,675円 + 飲み物代**